

初の女子生徒について

本校に初めて女子生徒が入学したのは、昭和26年4月のことです。前年の昭和25年には本荘高校と由利高校の統合案が県から示されており、「共学」ということについての意識は高まっていたと思われます。結局この統合案はすぐ立ち消えになりましたが、その翌年に本校単独で共学化がなされたこととなります。女子一期生は35名。創立以来初めてのことなので、女子用トイレの設置場所に頭を悩ませたり、女子用の校章バッジを安全ピン式のものにしたり、受け入れには相当神経を使ったようです。また、このときは、女子の制服については特に定めなかったようです。

女子第一期生達の心境は、学校新聞「玲瓏」二十二号に佐藤ツイさんが寄せた「共学から学ぶもの」と題する次の文から感じることができます。

「元来ならば女子は由利、男子は本高というのが世間一般の考え、五十名の女子の募集があったので私も迷いはしたものの中学での共学を生かし、男子生徒の旺盛な学習意欲の中で互して勉強してみたいと思い応募しようとしたのですが、両親は仲々頷いてはくれません。幾度か懇願し何日もかかってやっとのことで志願を許されての入学ですから、喜びも希望も大きくふくらみ胸がはち切れそうでした。けれども、入学してみると大勢の男子生徒の中では荒狂う大海に小舟で乗り出したような心細さと不安を、また集会や授業での騒々しさに期待を裏切られた寂しさなどを感じました。たまに廊下などで女の先生や同性の友人に会ってほっとすることがしばしばでした。また一面、対面式や団歌練習などでは、女子校ではとても感じるができまいと思われる迫力に圧倒され、毅然と自己主張をする男子生徒を見ると人前で率直に自己の意見を述べることも少なく、何事もすぐに妥協してしまう女子の特性とでも言う点を持つ自分自身を深く反省したのも事実です。入学してからもう八ヶ月、親身になってお世話下さった先生方や上級生のお陰で心細さも不安も今ではすっかり消えました。ですが、それ迄とは違った、何もかも新しい世界に接した驚きと感動、そして自己を反省する心はいつまでも持ち続けてゆきたいと思います。そして上級生の方々には強い意志と心豊かさ、鷹揚さを持つお兄さんであってほしいと望みますし、私もそんな上級生になりたいと思います。御父兄方の共学についての心配も大きいと思いますが、私どもは共学の意義を深く体して誇りを持って高校生活を築きあげたいと思います」

昭和28年度には弁論部に女子の部長が誕生しました。昭和27年に発足した家庭クラブ以外では、これが初めてになります。女子一期生の中からすでに部長が誕生しており、彼女たちが強い意志で本校入学を志願してきたことを改めて感じさせます。生徒会役員では昭和29年度に初めて会計に女子が選ばれています。初の女子生徒会長の誕生は平成18年度まで待つこととなります。女子一期生が入学してから今年で71年、現在の本荘高校は女子が約53%で、若干女子が多い状況です。彼女たちが勉強や部活動・生徒会活動に意欲的に取り組んでいる様子を見ると「女子一期生は35名」という話は実に隔世の感があります。

(文責：校長 熊澤耕生)